

「お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供」を通じ豊かな社会の実現へ貢献する

「食と農と大地」のソリューションカンパニー

Solution Provider for Agriculture & Landscape

夢ある農業と美しい景観を支え、持続可能な「食と農と大地」の未来を創造する

7つの誓い ～豊かな社会の実現へ貢献するために～

1. **Spirit** …… 創業の志を受け継ぎ、食と農と大地に向き合い、ともに歩む
2. **Front runner** …… フロントランナーとして、画期的な製品・サービスを生み出す
3. **Quality** …… 上質な製品を、情熱をもって作る
4. **Solution** …… お客さまの課題解決を目指し、アクションを起こす
5. **Innovation** …… 先端技術でイノベーションを巻き起こし、新しい価値を提供する
6. **Global** …… よりグローバルに、世界の社会課題を解決する
7. **Future** …… 食と農と大地の明日を、未来を切り拓く

“農家を過酷な労働から解放したい”

創業者 井関邦三郎は、手作業や畜力を用いた過酷な農作業を機械化によって省力化し、農業のさらなる発展に努めました。「ええもんをつくるんやぞ」と、お客さまに喜ばれる商品を提供することにこだわり続けた創業者の想いは、今もなお「井関の精神」として連綿と受け継がれています。

当社は

1. 需要家には喜ばれる製品を
2. 従業員には安定した職場を
3. 株主には適正な配当を

経営理念としまして社会的使命を達成する

ISEKIレポート2022のポイント

「ISEKIレポート2022」では、長期ビジョン「食と農と大地のソリューションカンパニー」として、事業を通して社会課題を解決するために「どのような価値を、どのように創造していくのか、どのように持続させるのか」について、中長期戦略や施策・取り組み等でご紹介しています。株主・投資家をはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに、井関グループの価値創造について理解を深めていただけたら幸いです。

ISEKIレポート 2022 Point①

井関農機ってどんな会社？

これまで解決してきた社会課題や井関グループの事業活動についてご紹介します。
Introduction (P5～10) / 事業戦略 (P31～44)

ISEKIレポート 2022 Point②

井関グループが目指す姿

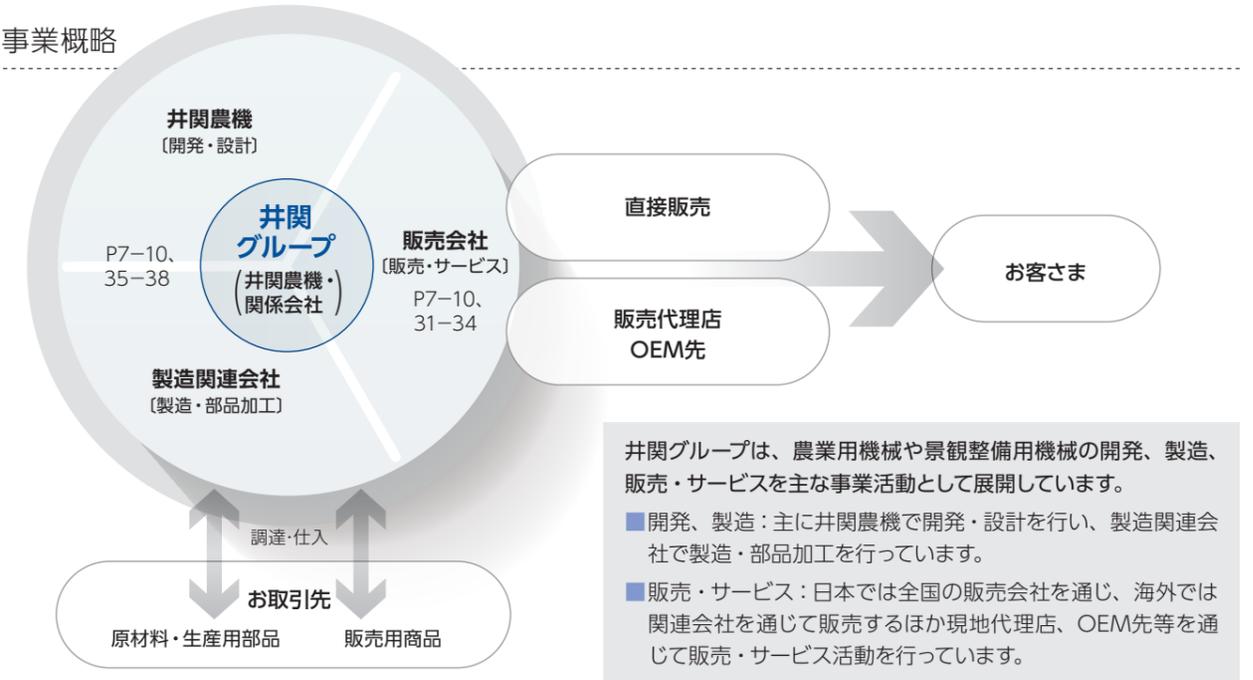
長期ビジョン「食と農と大地のソリューションカンパニー」の実現に向けた中長期戦略や施策、マテリアリティなどをご紹介します。
トップメッセージ (P11～16) / マテリアリティ (P21～22) / 中期経営計画 (P23～26)

ISEKIレポート 2022 Point③

井関らしい取り組み

これまで培ってきた井関グループの強みや環境経営など特色ある取り組みをご紹介します。
井関グループの強み (P27～30) / 商品開発・知的財産戦略 (P35～38) / 環境への取り組み (P39～44)

事業概略



井関グループは、農業用機械や景観整備用機械の開発、製造、販売・サービスを主な事業活動として展開しています。

- 開発、製造：主に井関農機で開発・設計を行い、製造関連会社で製造・部品加工を行っています。
- 販売・サービス：日本では全国の販売会社を通じ、海外では関連会社を通じて販売するほか現地代理店、OEM先等を通じて販売・サービス活動を行っています。

目次

Introduction

- 社会課題を解決してきた歴史…………… 5
- 井関グループについて (事業活動)…………… 7

井関グループが目指す価値創造

- トップメッセージ…………… 11
- 財務・資本戦略…………… 17
- 価値創造プロセス…………… 19
- マテリアリティ…………… 21

価値創造のための事業戦略

- 中期経営計画…………… 23
- 井関グループの強み…………… 27
- 国内市場戦略 (国内営業カンパニー)…………… 31
- 海外市場戦略 (海外営業カンパニー)…………… 33
- 商品開発戦略 (開発製造カンパニー)…………… 35
- 知的財産戦略…………… 37
- 井関グループの環境経営…………… 39
- 環境中長期目標と実績…………… 40
- 気候変動への対応…………… 41
- 脱炭素社会の実現への取り組み…………… 44

持続的な成長を支える基盤

- 井関グループのサステナビリティ…………… 45
- ステークホルダーエンゲージメント…………… 46

- ブランド価値向上 (信頼づくり)
 - 商品満足度向上への取り組み
～お客さまとの信頼づくり～…………… 47
 - サプライチェーンマネジメント
～お取引先の皆さまとともに～…………… 49
 - コミュニティ (地域社会との共生)
～地域社会との絆～…………… 50
- 従業員エンゲージメント向上
 - 人材戦略
～グループ人材力の最大化～…………… 51
 - 企業文化の醸成
～私の変革～…………… 55
- ガバナンス強化による企業価値向上
 - 独立社外役員からのメッセージ…………… 57
 - コーポレートガバナンス…………… 59
 - 役員一覧…………… 61
 - リスクマネジメント…………… 63
 - コンプライアンス…………… 65

財務・非財務データ

- 財務ハイライト…………… 67
- 財務サマリー…………… 68
- 非財務ハイライト…………… 69

会社概要/株主情報

- 会社概要/株式の状況/外部評価…………… 70

編集方針

本レポートは、株主・投資家をはじめ幅広いステークホルダーを対象に、井関グループの企業価値向上に向けた取り組みをわかりやすくお伝えすることを目的に、財務・非財務情報の両面からご紹介しています。

対象期間

2021年1月～2021年12月
ただし、一部2022年1月以降の情報を含みます。

対象範囲

原則として、井関農機と国内外のグループ関係会社を対象としています。活動やデータについて範囲を限定する場合は、本レポート中に注記しています。

参考ガイドライン

- 国際統合報告評議会 (IIRC)
「国際統合報告書フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」
- GRIスタンダード
- ISO26000
- 環境省「環境報告書ガイドライン (2018年度版)」
- 環境省「環境報告のための解説書
～環境報告ガイドライン2018年版対応～」

コミュニケーションマップ

井関グループは、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを図るため、各種ツールを通じて、さまざまな情報を発信しています。
今後もステークホルダーの皆さまに井関グループをご理解いただけるよう、建設的な対話と情報開示の充実に努めていきます。



将来の予測・計画・目標について

本レポートの掲載内容のうち、将来の見通しに関する記述については、作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、潜在的リスクや不確実性が含まれており、経済情勢や市場動向の変化などにより実際の結果と必ずしも一致するものではありません。

※記載金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて表記しています。

社会課題を解決してきた歴史

創業者の想い「農家を過酷な労働から解放したい」から始まり、「お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供」を通じ、社会的価値と経済的価値を創出してきました。



1926年 「井関農具商会」を創立
1936年 「井関農機株式会社」を設立
1946年 松山工場を設立
1949年 熊本工場を設立



1958年 系列販売会社の設立を開始。以降、販売会社を日本全国に展開
1961年 新潟工場を設立
東京証券取引所に株式を上場
1969年 東京支社を本社事務所と改称
1971年 ブラッセルにN.V. ISEKI Europe S.A.を設立
1972年 松山工場を増設、本社を同所に移転
1977年 茨城県に中央研修所を設立
北米にトラクタを輸出開始 (OEM)

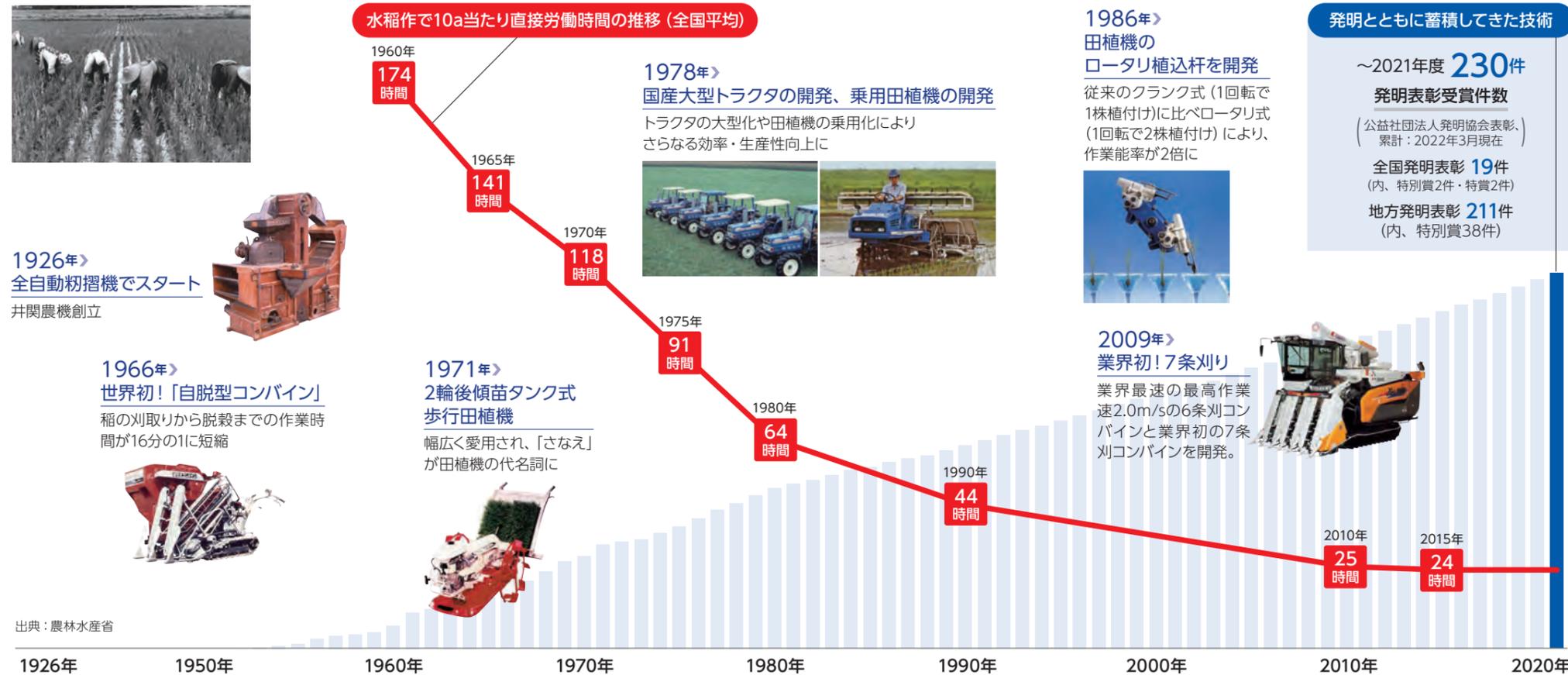


2001年 製造部門の分社により、株式会社井関松山製造所、株式会社井関熊本製造所を設立
2003年 中国江蘇省に井関農機(常州)有限公司を設立

2011年 中国湖北省に東風井関農業機械(湖北)有限公司を設立
2012年 PT.ISEKI INDONESIAを設立
2013年 ISEKI・テクニカル・トレーニング・センター (ITTC) を設立
ISEKI SALES (THAILAND) CO.,Ltd. (現IST Farm Machinery CO.,Ltd.) を設立
2014年 井関常州と東風井関を事業統合し、東風井関農業機械有限公司を設立
フランス代理店Yvan Beal S.A.S、YB Holdig S.A.S (現: ISEKI France S.A.S) を子会社化
2015年 夢ある農業総合研究所を設立
2016年 設計基本技術トレーニングセンター (IETC) を設立
2017年 ISEKIグローバルトレーニングセンター (IGTC) を設立
2020年 タイ販売会社 IST Farm machinery CO.,Ltd.を子会社化

1926年	1945 — 1950年代	1960 — 1970年代	1980 — 1990年代	2000年代	2010 — 2020年代	2030年
主な社会課題・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の食糧増産 高度経済成長期のはじまり 	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長期、都市部への人口集中による農業労働人口の減少 農業の近代化 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化の進展 農業従事者の減少、高齢化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> 食の安心・安全への関心の高まり 食料自給率向上 農業の持続的発展 	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営の大規模化 農業従事者の減少、高齢化の進展 農作物の高付加価値化 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs達成への貢献
井関グループのソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 食糧増産を支える農業機械の開発と普及 	<ul style="list-style-type: none"> 農業機械の大型化と多様化 稲作の機械化一貫体系の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 省力、低コスト農業に貢献する機械の開発 野菜作における機械化 欧州向け乗用モア(芝刈機)開発 	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上に貢献する大型機械の開発 営農提案・サポートなどソフト面の強化 アジアへの農業機械の展開本格化 	<ul style="list-style-type: none"> 先端技術やデータを活用したスマート農業の実現 環境保全型農業の推進 	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>「食と農と大地」のソリューション</p>
社会的価値を創出 ~持続可能な農業に貢献~	<ul style="list-style-type: none"> 農業の機械化による労力軽減・生産性向上 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の工業化・経済発展に寄与 自脱型コンバインと田植機は戦後日本のイノベーション100選に選定 	<ul style="list-style-type: none"> 省力・低コスト化による収益性向上 野菜作など多様化・高収益化 海外景観整備の作業能率向上 	<ul style="list-style-type: none"> 大型化・スマート化などさらなる効率化・生産性向上 環境負荷軽減 アジア農業の生産性向上 	<p>夢ある農業と美しい景観を支え、持続可能な食と農と大地の未来を創造する</p>	

日本農業の機械化・近代化により生産性が向上 水稻にかかる時間が7分の1まで効率化



現在・未来へ

スマート農業
ロボット技術やICTなど先端技術を活用したスマート農業を推進しています。効率的で生産性の高い農業経営を目指します。

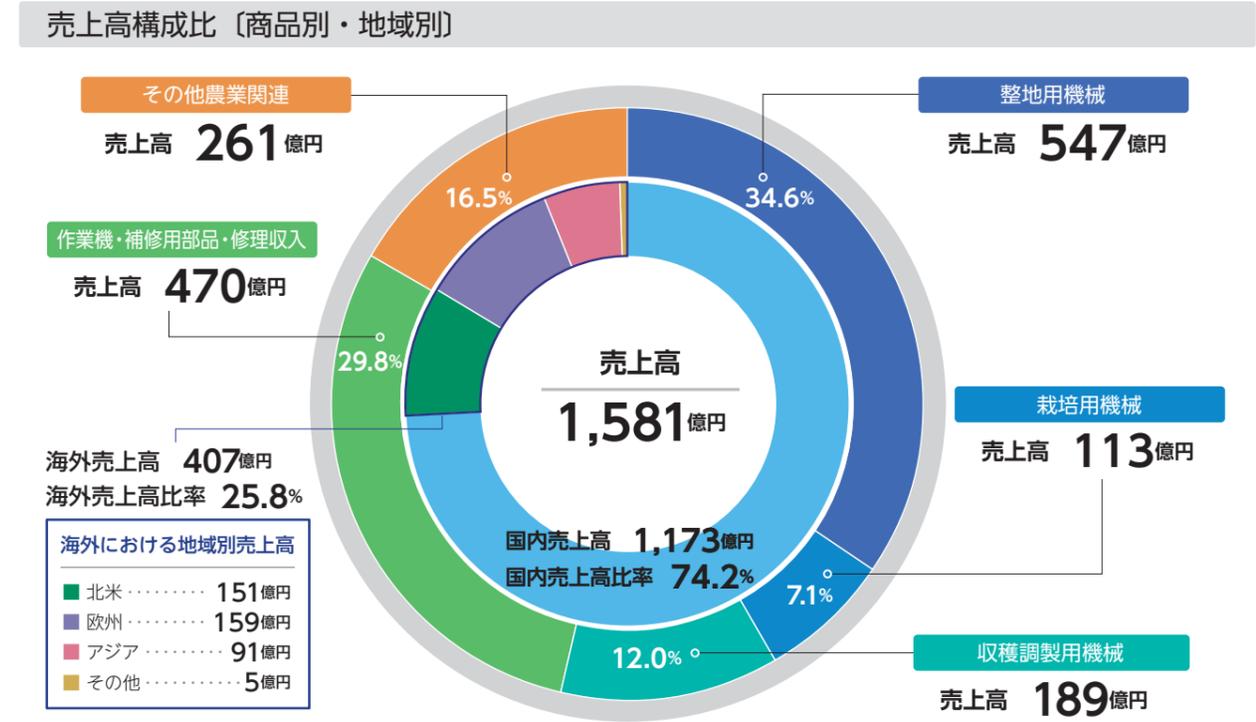
世界の農業に貢献
アセアンなど農業の機械化により、効率的な食料生産、農業の生産性向上に貢献します。

生活の質の充実へ
欧州のまちづくりや北米等でのプライベート充実にも貢献します。

環境保全へ
脱炭素・循環型社会の実現へ貢献します。

井関グループについて

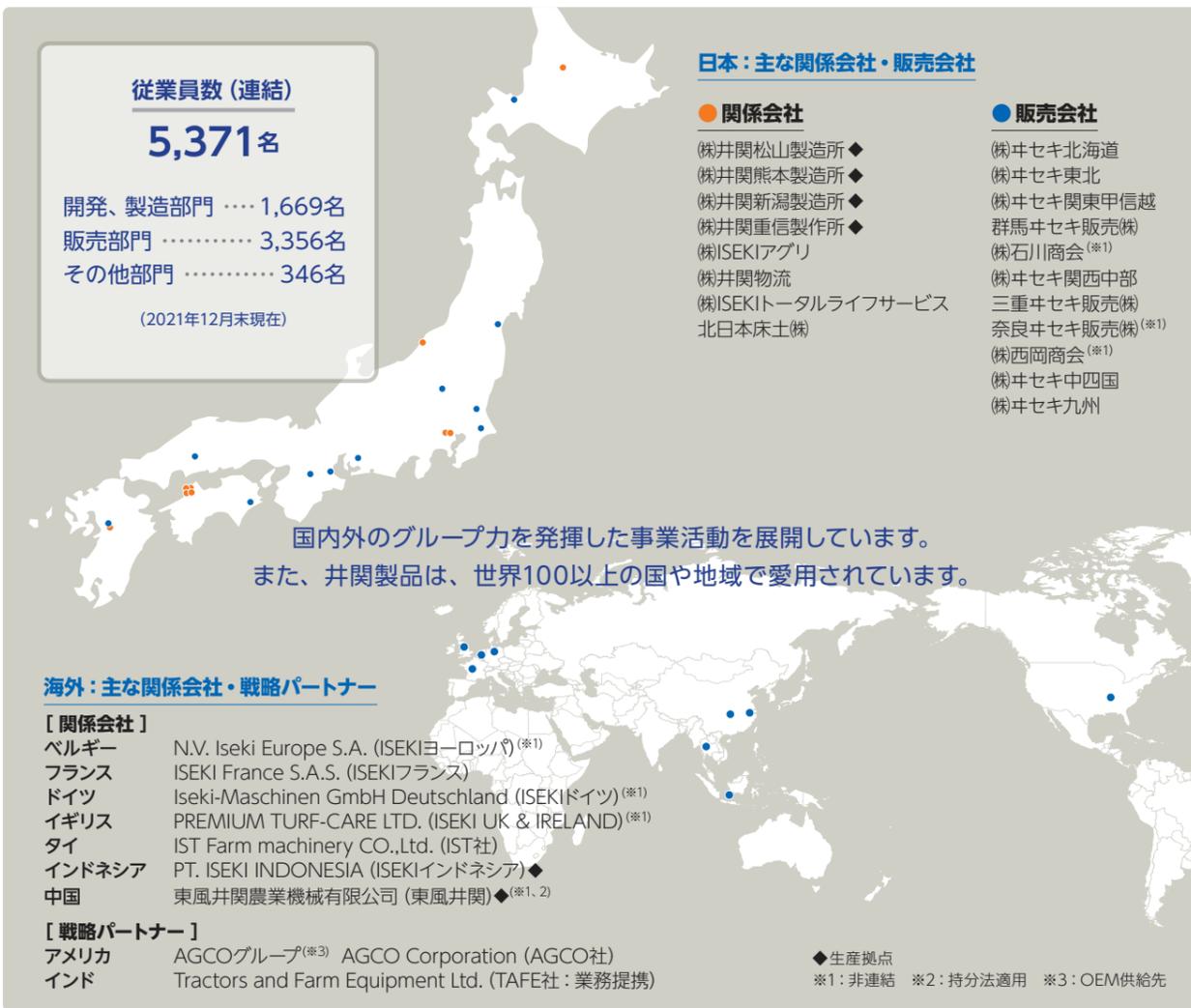
井関グループは、稲作や野菜作などに関する農業用機械や景観整備用機械の開発、製造、販売・サービスを主な事業活動として展開しています。



商品・サービスの概要

日本やアジアでは、農業生産者やホビー農家など農業用を中心に、欧州や北米では、景観整備業者・ホビー農家・一般消費者などを対象に、トラクタ・乗用芝刈機などの整地用機械、田植機・野菜移植機などの栽培用機械、コンバインなどの収穫調製用機械、の開発・生産・販売・アフターサービスを行っているほか、作業機・部品等の販売、OEMによる製品の販売など多岐にわたっています。

区分	内容	主な販売地域			
		日本	アジア	欧州	北米
農機製品	主に井関グループにて開発・生産(農業用・景観整備用機械)	農業用	景観整備用		
整地用	トラクタ、乗用芝刈機、耕うん機・管理機、乗用管理機など    海外向けトラクタ(軽土木作業用) 海外向けトラクタ(景観整備作業用) 乗用芝刈機	○	○	○	○
栽培用	田植機、野菜移植機など  	○	○	-	-
収穫調製用	コンバイン、バインダー、乾燥機、籾摺機、計量選別機など   	○	○	-	-



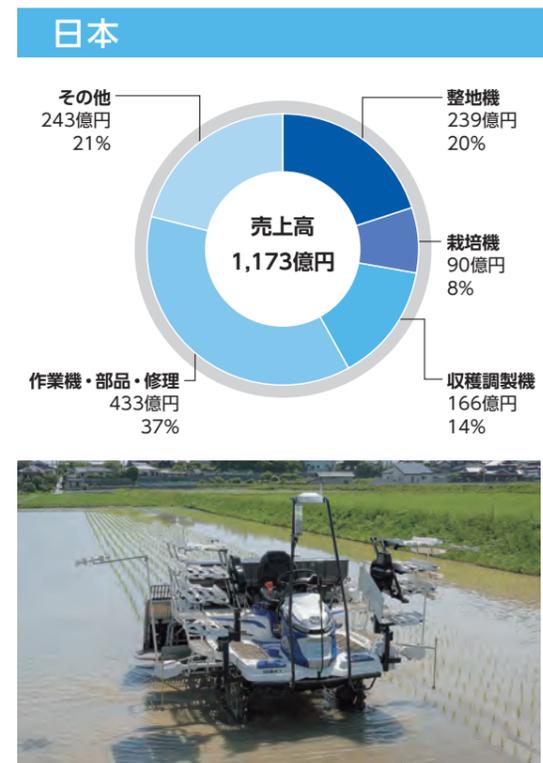
区分	内容	主な販売地域			
		日本	アジア	欧州	北米
作業機・補修用部品・修理収入	国内・海外作業機メーカー等の商品(一部井関グループにて開発・生産) 補修用部品 修理・メンテナンスなど  	○	一部	一部	主に部品
その他農業関連	施設工事(農業用施設・植物工場等)、農業用資材(肥料等)、コイン精米事業、炊飯事業など  	○	-	-	-

生産拠点・主な生産機種

関係会社名(所在地)	井関松山製造所(日本)	井関熊本製造所(日本)	井関新潟製造所(日本)	井関重信製作所(日本)	PT.ISEKI INDONESIA(インドネシア)	東風井関農業機械襄陽工場、常州工場(中国)
主な生産機種	トラクタ、乗用芝刈機、乗用管理機、乾燥機、ディーゼルエンジン	コンバイン、ニンジン収穫機	田植機、野菜移植機、籾摺機、バインダー	耕うん機・管理機 作業機(ロータリー、モア等)	トラクタ、乗用芝刈機	トラクタ、田植機、コンバイン、乗用管理機、野菜移植機
主な出荷先	日本、アジア、欧州、北米	日本、アジア	日本、アジア	日本、アジア、欧州、北米	北米、アジア、欧州	アジア

井関グループについて

日本国内および海外は「欧州」「北米」「アジア」を重点地域として展開しています。



さらなる省力化が期待される有人監視型ロボット田植機

販売会社を通じて、お客さまに農機の販売・サービスを行うとともに、お客さまの声やニーズを把握し、製品開発等にも活かしています。

販売ルート

- 販売会社11社

農機製品 (農業用)

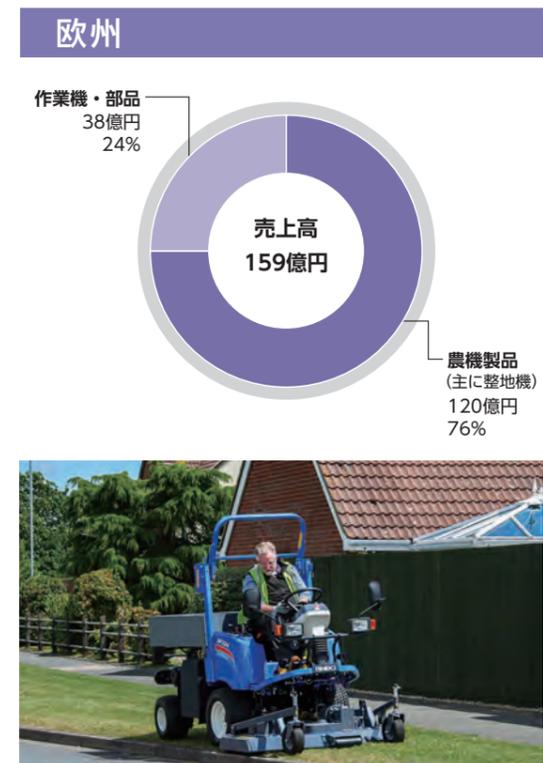
農業機械の総合専門メーカーとして稲作・畑作・野菜作等において機械化一貫体系を確立しているほか、ホビー農家向けなど幅広くラインアップしています。

作業機・部品・修理収入

大規模化に伴い計画的に作業が行えるよう、メンテナンス体制(部品、修理)が重視されています。また、市場動向に左右されにくく安定した収益基盤としても、作業機・部品・修理収入など付帯サービスにも注力し増加させています。

その他

農業用施設や太陽光利用型植物工場などの施設工事、肥料など農業用資材、食品・厨房関連商品などを取り扱っています。



公園や緑地の整備等に利用される乗用芝刈機

1960年代にビジネスをスタート。以降ヨーロッパ全域に販売エリアを拡大しています。

主に景観整備用の市場ニーズに即した小型・高性能なISEKIブランドの製品を提供しています。

販売ルート (主要代理店)

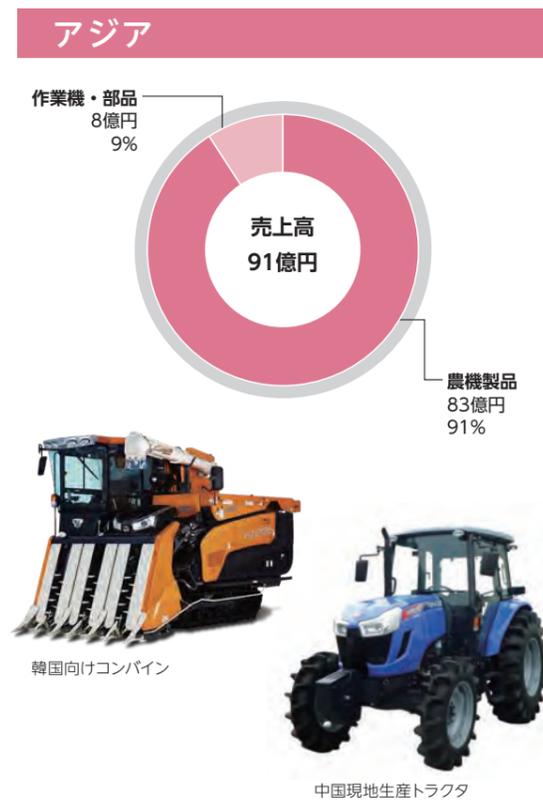
- フランス：ISEKIフランス (連結子会社)
- ドイツ：ISEKIドイツ
- イギリス：ISEKI UK & IRELAND

農機製品 (景観整備用)

緑地の芝刈りや道路清掃などの景観整備で利用されるコンパクトトラクタや乗用芝刈機と農業用のトラクタを中心にISEKIブランド製品を提供しています。

その他商品

当社製品とシナジー効果の高い、電動・ガソリンタイプの芝刈商品を仕入・販売しています。



韓国向けコンバイン

中国現地生産トラクタ

アセアン、東アジア (韓国・台湾)、中国の各市場において、日本で培った稲作関連機械を中心に展開しています。

アセアン市場

今後の成長が期待できるアセアン市場では、連結子会社化したIST社を核として、周辺国への販売・サービス展開をしています。

販売ルート

- IST社 (連結子会社)

東アジア (韓国・台湾)

先端技術や大型農機のニーズが高まっており、日本で活躍する大型高性能稲作農機等を現地販売代理店を通じて提供しています。

販売ルート

- 韓国：現地販売代理店
- 台湾：現地販売代理店

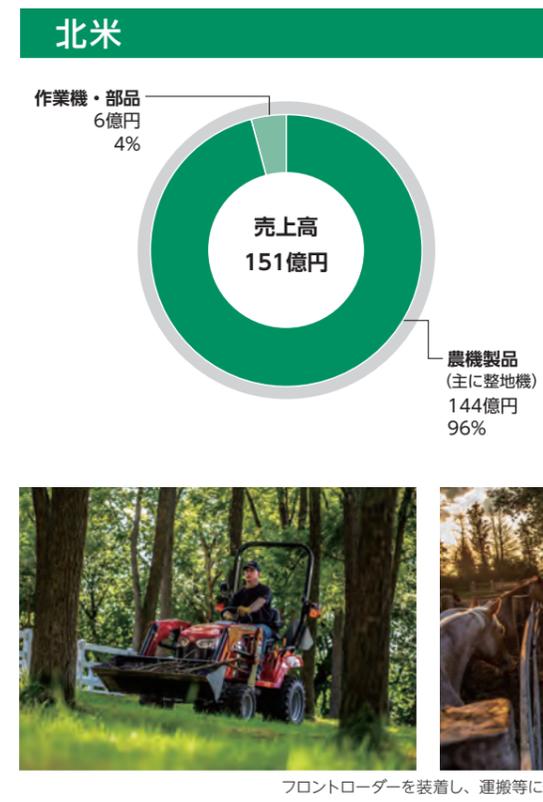
中国市場

水田作業に適応したトラクタ・田植機・コンバイン等を現地で生産・販売しています。また、先端技術を搭載した日本製農業機械の販売も行っています。

販売ルート

- 東風井関 (持分法適用会社)

※東風井関の現地売上高は連結決算に含まれておりません。



フロントローダーを装着し、運搬等に使用

モアデッキを装着し、草刈りに使用

農業機械のグローバルメジャーメーカーであるAGCO社をビジネスパートナーに、同社のMassey Fergusonブランドの製品をOEM供給しています。

販売ルート

- アメリカ・カナダ：AGCO社 (OEM供給)

農機製品：コンパクトトラクタ

プライベートユーザー向けのサブコンパクトトラクタを中心にカナダを含む北米全土に展開しています。

フロントローダーやバックホー、モアデッキ等を装着し、庭園管理や整地作業、また、馬の飼料などの運搬に使用され、大地を通じたプライベートな生活の質の向上に貢献しています。